第117号
2021年8月21日

西宮市北六甲台地区
社会福祉協議会
会長　日高 昭夫

●発行/北六甲台地区社協●発行日/偶数月●編集/北六甲台地区社協広報部●配布エリア/北六甲台・上山口東

コロナ禍で見えてきた地区社協活動

市社協リモート会議

『プロジェクターから投影された映像に各会場に繋がれた8コマの映像が映されている。議事進行に従って発言者の顔が大写しになる。』

六月二八日の地区社協会長会議の風景です。コロナ禍で従来の総合福祉センター会議室での一堂に会した会議が四会場をオンラインでつないだ**リモート会議に様変わり**しました。会議では「コロナ禍から見えてきた今後の地域福祉活動」をテーマに意見交換しました。

地区社協活動の影響

コロナ禍は地区社協活動にも次のような影響をもたらしました。

①ふれあい喫茶、子育てサロン、障がい者つどい場、街頭募金、福祉講座等の**日常活動は中止**を余儀なくされました。

②役員、執行委員、三役ごとの**グループライン**による情報共有が活発になりました。

③昨年四月には八〇名の**独居高齢者の電話訪問**を実施しました。

④高齢者見守り活動の一環である**敬老お祝訪問が定着**しました。

⑤コロナ禍だからこそ**ボランティアセンターの相談窓口**を開設しました。

⑥**ワクチン接種会場**への往復**カーボランティア**を実施しました。

コロナ禍の活動の課題

一方でコロナ禍の活動での次のような課題も見えてきました。

①高齢化の進行とコロナ禍で**独居高齢者のストレスや介護家族の葛藤**が表面化しています。民生委員とも連係した見守り活動が一層必要です。配食サービスやポスティング・ボランティア等の**新たな見守り活動の模索**が必要です。

②コロナ禍で高齢者のスマホ活用

等のニーズが増えています。地域在住の大学生等への声掛けによる**若年層のボランティア人材の発掘**が課題です。

③ワクチン接種が進む中で今後のイベント等の参加に当たって接種証明の提示を求める等の**”ワクチン差別”が懸念**されます。接種できない事情を抱えた方も参加できるための市社協等と連係した**ガイドライン作成**が必要ではないでしょうか。

地域交流拠点づくりの経過

地域交流拠点づくりの検討が遅れています。

昨年十二月に検討委員会で、上山口東と北六甲台の両自治会から地区社協中心の拠点づくりでなく「自治会主体の拠点づくり」が提案されました。

検討委員会では、自治会案も検討の一つとして具体案の提案を待つことにしました。

今年三月に自治会案が提案され検討委員会で質疑を行いました。

四月の北六甲台自治会総会で全役員が交替し、新役員が選任されました。新体制後、両自治会の自治会案扱いの協議は、コロナ禍もあって七月にようやく開催されましたが結論は持ち越されました。

検討委員会は、両自治会による自治会案の扱いの協議経過を踏まえて次回開催を調整しています。

（会長　日高）

敬老お祝い訪問　申込み希望者募集

今年75歳になられた方
昨年迄に申込まれなかった75歳以上の方
※過去に申込まれた方は申込みの必要はありません

敬老お祝い訪問を今年も実施します

今年も75歳以上の方を対象に「敬老お祝い訪問」を下記の「敬老お祝い訪問の概要」の通り実施します。

見守りよりそい活動の実施

地区社協は、敬老お祝い訪問を通じて見守りよりそい活動を実施します。

個人情報の管理と活用

災害時の高齢者の安否確認等が今後の課題です。
敬老お祝い訪問で頂いた個人情報がその場合の貴重な情報となります。
地区社協の個人情報管理規定に従って厳格な情報管理を行います。
今後とも見守り活動等の実施に向けて個人情報の効果的な活用をはかります。

敬老お祝い訪問の概要

■**内容**　対象者宅を訪問しお祝い品をお届けします（お祝い品は毎年変更します）
■**対象者**　75歳以上の方（2021年8月1日現在）
〇昨年訪問した方は今年も引続きお訪ねします（新たな申し込みは不要です）
〇今年8月1日迄に新たに75歳になられた方（下記の申し込みをお願いします）
〇75歳以上で過去に訪問を希望されなかった方（下記の申し込みをお願いします）
■**訪問日**　**9月20日の敬老の日の前後**
■**申込み**　下記の申込み書を切取り、以下のいずれかに投函下さい
〇北六甲台コミセン玄関前の社協ポスト
〇北六甲台安心プラザ玄関前のボランティアセンターポスト
〇上山口東自治会館玄関前の自治会ポスト
ポスト投函が困難な方は右記のﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｾﾝﾀｰにご連絡下さい
■**締切り日**　**8月31日迄**に投函して下さい

北六甲台ボランティアセンター
電話＆FAX　078-904-4576
毎週火・木9時～12時

切り取り線

北六甲台地区社協　敬老お祝い訪問の申込み書

敬老お祝い訪問を希望します

以下の情報を北六甲台地区社協の活動について利用することに同意します
（下記情報は、北六甲台地区社協が責任を持って管理し、地区社協活動以外には使用しません）

住　所　北六甲台　　上山口東　　丁目＿＿番＿＿号
※いずれかを〇で囲んで下さい

氏名①＿＿＿＿＿＿＿＿　**生年月日**　大正・昭和　＿＿年＿＿月＿＿日

氏名②＿＿＿＿＿＿＿＿　**生年月日**　大正・昭和　＿＿年＿＿月＿＿日

※3名以上の申込みは裏面に「氏名」「生年月日」をお書き下さい

電　話　078（＿＿＿）＿＿＿＿＿＿　**携帯の場合**＿＿＿＿＿＿＿＿

世帯状況　独居 ・ 独居以外　※いずれかを〇で囲んで下さい

福祉ネットから地区ネットへ！

独自財政確立の困難さ

二〇一四年三月の設立以来、福祉ネットは六年を経過しましたが、去る五月一五日の役員会において正式に福祉ネットの解散と新組織への移行を決定しました。

福祉ネット役員会では、ここ一年ほど組織の在り方を見直す議論を重ねました。背景には福祉ネットの費用負担が全面的に地区社協に依存していた点があります。独自組織としてその点の改善を検討したものの構成組織の費用分担は困難であり、独自の財政確保は断念するほかありませんでした。

そのため昨年からは主たる経費項目である広報紙発行と福祉フォーラム開催を中止しました。

重点課題の扱いの変更

二年前から検討に着手した「共生型地域交流拠点づくり」についても、昨年地域交流拠点づくりの「地区代表者会議」と「検討委員会」が設置され、協議の場がそちらに移されました。

発足以来のテーマだった「地域包括ケア」についても、今年三月に開催された「地域包括ケアZOOM懇談会」をベースに今後は地域包括支援センターと連携しながら地区社協が独自に具体化することになります。

地区ネットへの移行

以上の経過や背景が、福祉ネットの新組織への移行の趣旨です。今後は地区社協が主催する「地区ネットワーク会議」を、地域福祉に関わる自由でオープンな懇談の場として開催する予定です。

福祉ネットの六年間の歩み

地域福祉の啓発・広報活動

発足以来、地域福祉の啓発・広報活動に努めました。五回の福祉フォーラム（延四六八名参加）と、全住民対象に三二〇〇部の広報紙を一〇号にて発行しました。

高齢者の困り事支援

住民から寄せられた次のような高齢者等の困りごと改善に取組みました。●ゴミステーションのコンテナ保管の改善●空家空地問題で市と協議●認知症徘徊者の捜索手順の整理と広報●降雪時の融雪剤手配で自治会と連係●バス通り舗道凹凸の市への修繕要望●地域支援マップの作成と広報等

認知症の地域支援に着手

北部地区初めての認知症カフェの立上げを支援し、二〇一八年十二月に“にこにこ丸山カフェ”がオープンしました。

二〇一九年四月には、福祉ネットで認知症サポートべんり帳・北六甲台地区版を発行し、全戸配布しました。市内で三番目の地区版のお披露目会に地区版掲載の四三施設・団体の代表二二名の方が出席されました。

北六甲台自治会と共催で二回の認知症サポーター養成講座を開催し延七一名の受講がありました。

事業者と初めての連携

地域の病院、クリニック、介護施設、薬局等の事業者がオブザーバー参加しました。高田上谷病院の送迎バス運行やコープこうべの移動店舗運行に協力しました。有馬病院での認知症研修・施設見学会を開催しました。山口苑デイサービス運営推進会議や一羊会評議員会に代表者を派遣しました。

地域活動・コーディネート

新たに障がい者家族会「パズルの会」、北六甲台小学校PTAと連係し、オブザーバーや役員として参加されました。

地域交流拠点づくり懇談会を開催し、三五の活動グループ・団体との連係の場が実現しました。

あんしん窓口山口と共催でクリニック、介護施設、訪問看護師等の専門職等九名参加の地域包括ケアZOOM懇談会を開催しました。

地区福祉計画研修会報告

令和の地域福祉を考えよう！

サブタイトル「地区計画づくりってどんなこと??」研修会に参加しました。

七月七日(水)、感染リスクを抑えるため会場は分散・オンライン形式で北部エリアは徳風会館にて実施。画面の司会の方が、みんなに起立を促されたので、自己紹介かな?と思いきや、じゃんけんゲームをすることに(笑)。おかげでリラックスし会場が一気に和みました。

先ずは兵庫県社会福祉協議会の松本裕一氏と、西宮市社会福祉協議会の上野武利氏の講師お二人のお話でした。社会問題となっている社会的孤立を防ぐには**近所付き合い**といった繋がりが大きなウエイトを持つこと。「地区福祉計画とは」**みんなで身近な地域の未来を話し合うこと**等々。「ふ～ん…?」と頭を通り過ぎました。

その後各地区の会場においてグループワークを開始。はじめに①各自、時代を振り返り二十年前から現在に至る自分を取り巻く地域変化を思い出す作業（何だかタイムワープした気分）の後、発表。次に②お話を聞きたい・繋がりたい組織やグループなど、思いつくまま列挙してその理由を会場で発表。それぞれに地区の抱える問題や共通する課題もあり勉強になりました。

左のQRコードをスキャンして市社協のホームページをご覧下さい

今はまだ、スタートラインに立ったばかりで地区福祉計画の向かうべき先が見えていません。今日の講師の方のお話しのように、みんなで一緒に考えたいと思います。

（事務局長・北村啓子）

編集を担当して

●手作り感のある創刊号

創刊号は、当時のワープロ時代を反映し、手作りのぬくもりがあります。

●編集ソフトの活用

私が編集担当を始めた**二〇一七年**には既に、「パーソナル編集長」というソフトが導入され、文字入力するだけで紙面構成ができるようになっていました。現役時代のパソコン経験で記事作成はすぐに理解できましたが、写真貼付やカラーの白黒変換には少し手こずりました。

●年一度の全戸配布

大変だったのは毎年六月の全戸配布三千五百部の印刷です。朝九時コミセンに広報部員が集合し十二時頃迄、印刷と丁目別枚数をカウントし、各丁目の配布責任者に北六甲台と上山口東のポスティングをお願いしました。

●折り機の便利さ

広報紙はA3用紙を二つ折りにしますが、高速で正確に二つ折りしてくれる折り機に驚きました。こんな便利な機械があるのかと感心しました。

●カラー版全戸配布体制

昨年秋頃に執行委員会で広報紙の通販印刷活用が話題になりました。新年度になり、今後の会計収支の健全化を考慮するとコスト削減が避けられません。スマホで通販印刷の見積りを調べると、印刷作業がなくなる上かなり安くなることが分かりました。六月号からネット通販に慣れた広報部員にお願いして実施しました。納品された広報紙は高品質で百枚毎に区切られ枚数カウントも楽で、もっと早く活用すべきだったと思いました。

（広報部長・小出晴浩）

「ぬくもり」カラー化と全戸配布体制！

「ぬくもり」の進化

■ぬくもりは一九九七年五月に創刊されました。

■二〇一二年四月号からはそれまでのA5版二つ折りの紙面を現在のA4版二つ折りにサイズアップしました。

■二〇一三年一二月号からは紙面編集に編集ソフトを導入し、多彩で高度な編集が可能となり紙面構成が一新されました。

■二〇一六年六月号では年一回限定で初めてカラー版印刷を外注し、総会報告を中心に地区社協活動の周知を図るため自治会員対象でなく全戸配布を実施しました。

■二〇二一年六月号以降、印刷通販業者☒発注の低コストによるカラー化と全戸配布という現在の発行体制に至っています。